

「のびのびホースセラピー」に出かけました！

兵庫県尼崎港内では、大阪湾広域臨海環境整備センター（フェニックスセンター）、兵庫県尼崎港管理事務所の支援の下に、地元の中高校をはじめ多くの団体等の参加によって、「海と陸をつなぐ栄養塩の環づくり」の活動が行われている。具体的には尼崎港内におけるワカメの育成・取り上げ、付着生物の取り上げ、ワカメ等による堆肥づくりと菜の花畑づくり、菜種油の搾油とバイオディーゼル燃料（BDF）としての循環的な利用を行うものであるが、CIFER・コアでは平成 26 年度からこの活動の一翼を担うことになった。



H26.11.1（畑づくり）



H26.11.9（種まき）

そんな折に、尼崎港内の「のびのび公園」（尼崎市東海岸町 41 番）で「のびのびホースセラピー」というイベントがあると聞き、ここに植えたばかりの菜の花を確認がてら寒風が吹く中を出かけた。

イベントの概要

開催日：平成 26 年 12 月 6 日（土）9:00～12:00（午後からも午前と同じ内容で実施）

主催者：尼崎市立南武庫之荘中学校、尼海の会、巴バルブ(株)

後 援：尼崎市教育委員会

協 力：ネイチャークラブ、大阪湾広域臨海環境整備センター、兵庫県尼崎港管理事務所、CIFER・コア

内 容：①公園清掃

②馬とのふれあい体験

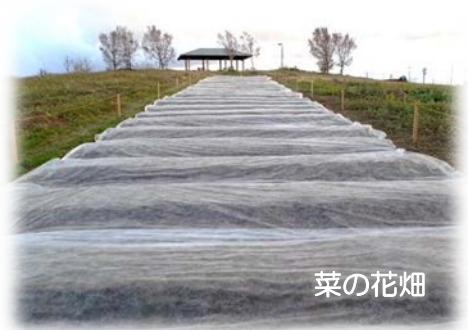
③海的环境学習



当日の様子

のびのび公園は、フェニックスセンターによる埋立後の利用として一角に兵庫県が造ったもので、残土を利用したものだと思うが、シンボリックに高さ 10m 程度の丘が造成され、頂上には大きな東屋も設置されている。快晴だったので、大阪市舞洲のユニークなデザインの清掃工場がすぐ近くに見えるなど 360 度の眺望が楽しめた。

この丘には、先日、植えられた菜の花の苗が育ち始めている。そんな丘で、まず CIFER・コア特別研究員でもある中西敬が海の物質循環について語る。菜の花が咲いた後、菜種から油を搾り、それで食べ物をつくり、ヒトが排泄する。それを下水処理場で浄化して処理水が海に放流される。放流水に残っている栄養物質がワカメなどの海藻を成長させ、ワカメを使って菜の花の肥料をつくるというもので、フェニックスセンターの協力で現に尼崎で行われている取り組みである。



菜の花畑

講義の後、菜の花畑の横に生えている雑草を全員で引き抜くが、いずれ色々な花が植えられ、公園利用者を楽しませることになることが期待される。彩のある花の風景を見たいものだ。

中学生を始め 100 人近い参加者が抜いた草は、単純に集めるのではなく馬に背負わせた籠に入れることになっており、遊びの要素が加味されている。



物質循環の説明



草めき

ふれあい

この後、乗馬体験。3 人一組になり、うち 2 人は手綱を持つ。そのうち 1 人は乗馬帽をかぶった人が乗る間、馬の前に立って動かないようにするが、馬はおとなしい。乗馬後、手綱の 2 人は馬の両脇に立って歩く。簡単に見えることだが、馬に初めて触れる中学生にできるのだろうかと思っていると、



乗馬体験

どの組もうまく進む。馬はかなり訓練されているようだ。騎手はピンポン玉の入ったスプーンを持ち、進路に設置されたコーンの間を蛇行しながら進んだりしていたが、中学生もうまくこなしていた。最後の方では、ポニーに 5~6 歳くらいの男の子が平然と乗っていた。乗りたくなかったが、中学生だけでも相当の人数が待っているのであきらめた。

この 5 頭の馬は、巴バルブ(株)が提供しているもので、公園の前には滋賀県の栗東あたりで良く見かける馬輸送用のトラックが待機していた。馬の世話をしていた男性に聞くと、

この馬たちは、ポニーだけでなくサラブレッドもいるが 20 歳以上、人間でいえば 3 倍くらいになるので 60 歳以上の高齢者ばかりになる。馬は餌をすりつぶすようにして食べるので、高齢になると歯がすり減っているため餌も少しふやかして与えているらしい。馬も高齢化時代ですかと聞くと、近畿のある警察では 25 歳の馬が現役として活躍しているそうで、馬社会も人間社会と同じだ。

最後のイベントはCIFER・コアにもかかわりの深い「海の世界学習」。尼崎港に面した広場に集まり、中西氏の講義にあった海の循環構造を「尼海ジャンケンゲーム」を通じて体験するもので、中学生向けの遊びの要素が入っている。



CIFER・コア大学連合のメンバーでもある徳島大学の上月康則教授の話の後、NPO 法人「人と自然とまちづくりと」の平井研氏が尼崎の「海の神」に扮して登場し、徳島大学学生の協力のもとにゲームを進める。



最初、このゲームのルールがよくわからなかったが、栄養物質がプランクトンやワカメになり、ナマコに食べられ、それをヒトが食べるといった海の循環を、ジャンケンしながら回って体験するというものだった。例えば⑥のナマコでは、そこにいる人同士がジャンケンして勝つと⑦のヒトに進み、負けると⑤の堆積物に戻るのだ。これで本当に循環できる人がいるのかと思っていたら、数人が元の位置に戻り循環を達成していた。ジャンケンによる運の要素があるとは思うものの、海の循環構造を体験することになる。中学生は、ジャンケンするたびにキャーキャーと声をあげながら移動しており、よく考えたものだと感心した。

テキストを読んで頭の中で学習するだけでなく、年齢によってはこんな方法も印象に残りやすいので、工夫することが大切だと思った。



締めくくりは、南武庫之荘中学校の中岡禎雄教頭の挨拶。

この日の活動は、中岡教頭をはじめ多くのボランティアによって支えられており、このようなボランティアが大勢いて、参加する中学生も多い尼崎はエコの街に生まれ変わりつつある。